

(富田林市の特徴)

(1) 地域特性

- 市の西部に丘陵部を擁し、住宅地でも**勾配の大きい地域**が存在する。
- 本市の人口は減少傾向にあり、平成27(2015)年時点に比べて、**令和27(2045)年には人口が約4割減少**することが予測される。
- 令和27(2045)年には老年人口割合が約44.3%まで増加**すると見込まれている。また、令和7年(2025年)には**75歳以上の後期高齢者が2万人を上回る**と予測されている。
- 1世帯あたりの世帯人数は減少が続いており、特に、**65歳以上の高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の増加が顕著**となっている。
- バスが高頻度で運行されるエリアや区間がある一方、市内には**交通不便地とされるエリアが複数存在**する。

(2) 移動環境

- バスが運行される路線でも**混雑度が高い道路**が存在する。
- コロナ禍前から**鉄道利用者の減少**が続いている。
- バスネットワークについては、**重複・競合するバス路線が存在**している。
- コロナ禍以前まで、**バス利用者は、横ばいもしくは増加傾向**を維持していた。ただし、**コロナ禍による減少**がみられる。
- 地域公共交通のほか、市内に立地する**複数の施設が送迎輸送を実施**している。

(3) 上位関連計画におけるまちづくりの方向性

まちづくりに関する方向性

- 高齢者をはじめ、**誰もが利用しやすい公共交通網の形成や、移動しやすい環境づくり** (富田林市総合ビジョンおよび総合基本計画)
- だれもが移動しやすく、歩いて暮らせるまちづくり(富田林市都市計画マスタープラン)
- すべての市民が安全・安心・快適に移動できるまち(富田林市交通基本計画)

公共交通に関する方向性

- 便利で円滑な交通ネットワークの形成**を目指す((富田林市都市計画マスタープラン 等)
- 地域の実情に応じた公共交通網のあり方**を検討する (富田林市総合ビジョンおよび総合基本計画 等)
- 交通不便地等における移動手段の支援**を検討する(富田林市地域福祉活動計画 等)

(4) その他 地域公共交通を取り巻く環境

- 財政面をみると、人件費・扶助費・公債費などの義務的経費や公共施設の更新費用等、**行政コストは増加傾向**にある。
- 乗合バスの**乗務員数は、ピーク時の約6割**まで減少している。
- 高齢者の移動に対する考え方、**安全・安心への意識**が見直される局面を迎えている。

(5) 富田林市が運営する地域公共交通の利用実態・ニーズ等の把握

○ **移動実態**

- 75～84歳の約35%が自動車**を自分で運転して外出している。一方、**85歳以上では、4割以上が家族や知人による運転**によって外出している。
- 移動手段がなく、**外出に困ることがある75歳以上が2割以上**となっている。
- 75歳以上では、5割以上の回答者が「**通院**」のために自動車を使用している。
- 65歳以上では、1割以上の回答者が「**運転を控えたい**」と思っている。また、75～84歳では、「**免許を返納する予定である**」回答者が約2割を占めている。
- コロナ禍によって、公共交通の利用を控えるようになった回答者が約2割**を占めている。

○ **地域公共交通の利用状況**

- 大阪狭山市域に立地する「**金剛駅**」の利用が最も多くなっている。
- 鉄道駅までのアクセスは、**路線バスが約2割**を占める一方、**自動車も2割**を占めている。
- 75歳以上による買物や通院を目的としたバス利用**が多くみられる。
- バスのルートや運行内容を知らない回答者が約5割**となっている。

(地域公共交通の課題)

「年齢」や「住む場所」、「利用できる交通手段」など、**市民を取り巻く環境に関わらず、いかに、誰もが利用しやすい地域公共交通サービスとしてい**いか

将来の人口減少、更なる高齢化、財政支出の難しさが予測される中、いかに、**市民が円滑に移動するための地域公共交通ネットワークを維持・活性化**してい

高齢化の進展、環境意識への高まりを背景に、いかに、**自動車に頼らない生活環境・移動環境を構築**してい

人口分布や土地構造、移動を取り巻く環境が異なる中で、いかに、**地域特性に応じた移動サービスを構築**してい

民間事業者による鉄道、路線バス、タクシー、富田林市が運営する移動サービスが充**実・共存**する中、いかに、**交通の種類ごとの適正な役割分担**をしてい

民間事業者の経営環境や、行政の財政状況が厳しくなっていくと予想される中で、いかに、**市民(地元企業含む)・交通事業者、行政が連携**してい

(地域公共交通の課題)

「年齢」や「住む場所」、「利用できる交通手段」など、市民を取り巻く環境に関わらず、
いかに、誰もが利用しやすい地域公共交通サービスとしていくか

将来の人口減少、更なる高齢化、財政支出の難しさが予測される中、
いかに、市民が円滑に移動するための地域公共交通ネットワークを維持・活性化していくか

高齢化の進展、環境意識への高まりを背景に、
いかに、自動車に頼らない生活環境・移動環境を構築していくか

人口分布や土地構造、移動を取り巻く環境が異なる中で、
いかに、地域特性に応じた移動サービスを構築していくか

民間事業者による鉄道、路線バス、タクシー、富田林市が運営する移動サービスが充実・共存する中、
いかに、交通の種類ごとの適正な役割分担をしていくか

民間事業者の経営環境や、行政の財政状況が厳しくなっていくと予想される中で、
いかに、市民(地元企業含む)・交通事業者、行政が連携していくか

(富田林市地域公共交通計画の基本的な方針)

誰もが安心・安全・快適に生活できるための
地域公共交通ネットワークの形成

地域特性に応じた、
多様な地域公共交通サービスの導入

地域公共交通への
理解醸成と利用促進

地域住民・交通事業者・行政が一体となった
地域公共交通サービスの維持